

高齢社会に向う台湾での社会計画

中國科技大學管理學院行銷與流通學系教授

徐淵靜

1. 台湾の高齢化のスピードは世界でトップ

2011 年末の台湾における高齢者の人口は 252 万 8249 人であり、10.89%を占めている。戦後のベビーブーム世代が高齢者となる 2014 年から高齢化のスピードは加速し、273 万人（11.6%）から 2021 年には 392 万人（16.54%）に増加すると見込まれている。台湾・日本・韓国は世界の中でも高齢化のスピードが最も速い国といわれている。また、高齢者の人口比率が 7%に達する高齢化（aging）国家から 14%に達する高齢（aged）国家になるまでの年数は、韓国 18 年（2000-2018）、日本 24 年（1970-1994）、中国 27 年（2000-2027）、アメリカ 69 年（1944-2013）、フランス 115 年（1865-1980）であり、台湾は 24 年（1993-2017）であると予想されている。その後さらに高齢者の人口が 20%以上を占める超高齢（superaged）国家になるまで台湾はわずか 8 年（2017-2025）と予想され、韓国（2018-2026）と類似し、日本の 12 年（1994-2006）よりも速いことになる。これは高齢社会に向けての準備期間が非常に短いことを意味している（図1）。

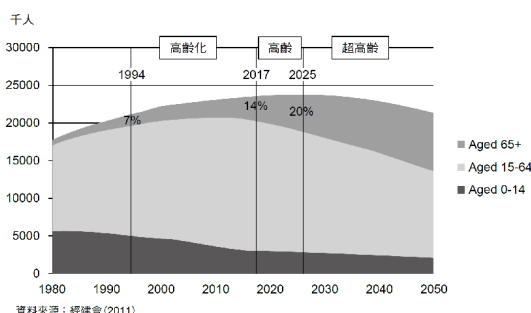


図1 台湾の人口推移（1980-2050）

2. 台湾における高齢化のスピードが速い原因

(1)ベビーブーム世代の高齢化

1946 年から 1955 年に出生した人はすでに老年期に入り、この先 10 年以内に台湾で増加する高齢者数は 250 万人以上である。さらに、その後 10 年で増加する高齢者数は 368 万人以上となる。

(2)出生率の低減

2010 年、台湾の出産可能な女性（15-49 歳）一人あたりが一生に産む子供の数は 0.895 で、超低出生率の 1.3 をはるかに下回っている。2011 年の卯年には、建国百年のお祝いムードが加わり、出生数は 196,627 人に昇り、総出生率は 1.0 以上に回復した。しかし、これは短期的な効果に過ぎず、青壮年人口は益々減少し、高齢者比率はさらに高くなっている。

(3)国民の寿命の延び

衛生環境の改善や医療水準の向上、生活が豊かになったことにより、2010 年には台湾男性の平均寿命は 76 歳、女性は 83 歳となった。また、2025 年には台湾人の平均寿命は男性 79 歳、女性 86 歳になると予想されている。これは寿命が延び、高齢者数も益々多くなることを意味している。

3. 体系的研究の必要性

人口高齢化の社会に対する影響は広範囲におよび、生理的老化や精神疾患の増加、日常生活機能の衰退から退職まで、様々な需要を生み出している。例えば、生理的・精神的健康に関するサービス、長期ケア、経済的支援、ボランティア、住宅、レジャー活動、交通、教育などである。加速する高齢化により生じる数々の問題に直面して、「高齢社会の到来：2025 年に向けた台湾社会計画に関する体系的研究」と題した当研究計画は、行政院国家科学委員会から補助を受けている。研究メンバーには、社会業務と社会福祉、社会学、医学、看護、公衆衛生、心理学、労働、金融保険、リスク管理、レジャー管理、建築、デザイン、交通輸送などの専門の学者が含まれている（図2）。2025 年の台湾社会における人口構成を背景として見ると、この時台湾の 5 人中 1 人が高齢者であり、これによって生じる健康のケア、社会的ケア、社会参加、経済的支援、就業と人材資源、住宅、交通輸送とコミュニケーション等の生活にかかわる問題と需要がひとつひとつ浮上してくる。早期に研究し、対応を計画しなければ社会全体にとっての懸念となる。

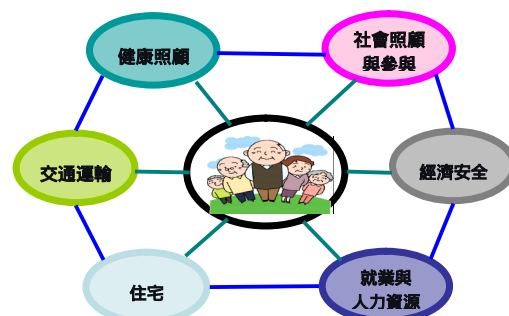


図2 研究メンバー

研究は、以下に示す 3 段階に分けて進めることとする。

第一段階（2005.8-2006.7）：前述の高齢化とそれに関連する問題を定め、文献研究・現況分析・現行戦略の評価さらには問題に対する計画の詳細な研究を行う。第二段階（2006.8-2008.7）：健康のケ

ア・社会的ケアと社会参加・経済的支援・住宅・高齢者の就業と人材資源・交通輸送などの六大問題について個別に計画の基礎研究を進め、大きなサンプルとして「老年生活における異なった世代の需要とサービス提供および価値に関する嗜好についての調査研究」を完成させ、その後、次のレベルの資料分析へと進む。また、高齢化社会における科学テクノロジーの応用開発計画の参考として、初歩的政策を発展させる。第三段階(2008.8-2011.7)：第1期の計画と第2期の基礎研究を経て、当期では研究におけるあらゆる問題をまとめて、「コミュニティに根ざしたアクション・リサーチ (community-based action research, CBAR)」を行う。そして、研究対象には台南県西港郷と台北県板橋市を台湾の村落と都市エリアの代表として選定する。

4. 台湾の高齢者の交通における需要の特性

国科会「高齢化社会の到来：2025 年に向けた台湾社会計画に関する体系的研究-高齢化社会の交通輸送」の研究結果によると、現在の台湾の高齢者の交通における需要の特性を以下に示す。

(1)移動目的

調査区域は都市化の程度により都会区域と非都会区域の2つに区分した。高齢者の移動目的については、都会区域、非都会区域共に医療のための移動が占める割合が最も高く、その次が運動・買い物、または散策および近所の人との会話(おしゃべり)となっている。しかし、活動項目の重要度という観点からは、都会区域と非都会区域の高齢者が1ヶ月で最もよく行う活動に僅かに差異がある。それは、運動のために外出する頻度がどちらも毎月25日間と24.4日間である他に、非都会区域に比べて都会区域の高齢者は運動のための移動以外に、よく行うレジャー活動として、例えば買い物や近所の人とのおしゃべりがあり、非都会区域の高齢者には近所の人とのおしゃべりや農作業がある。

(2)交通に利用する手段

高齢者の6割近くが運転免許を持っていないために、歩行において補助器具を使用する高齢者の比率は小さい。したがって、初歩的段階として高齢者の移動形態の大部分は、自身での移動である。また、使用する交通手段は歩行・公共の乗り物・他者に載せてもらうといった方法である。

高齢者が使用する交通手段について、医療のために比較的遠くへ移動する方法には、公共の乗り物や自動車に載せてもらったり、非都会区域の高齢者が農作業のために自転車を使うといったもの以外は歩行が主となり、歩行での移動時間の平均分布は15～30分程度である。これにより歩行するための環境が高齢者の生活にとって重要な手段であることが確認された。

5. 台湾が直面する高齢社会における主要な交通の課題

(1)安全安心と尊厳を有した交通輸送を構築するという目標

高齢社会における交通輸送の目標は「安全」、「安心」及び「尊厳」を有する交通環境を創造することである。いわゆる「安全」とは、安全に高齢者が順調、円滑に各施設を使用し、その往復において妨げなく移動ができ、施設の使用時に考慮する必要がない、または車両が人身の安全を脅かすといったことがないよう確保されている状態を指している。「安心」とは関連する施設が順調に、利用者自身で、心配なく使用出来ることを指している。一方、「尊厳」とは尊重され、ソフト及びハードウェアの面において交通における高齢者の弱い立場を解消し、高齢者が移動する時にその他の青壮年者と同等に便利さと安全を有する権利を持つことを指している。最終的な目標は、妨げのない福祉的で質の良い交通輸送環境を造ることである。

(2)法による交通利用者の保護を完璧にする

高齢者の「移動空間」を確保するために、まず完璧で明確な法が根拠として必要となる。あらゆる人の移動空間における権利が完璧となって、そしてその後やっと各戦略や活動を執行することが出来ることとなる。

(3)ユニバーサルデザインを利用した交通輸送施設と設備

妨げのない空間とは高齢者の「移動空間」の確保にとって必須条件であり、「ユニバーサルデザイン (Universal design)」の原則において、交通輸送設備と施設の計画・デザインが重要な根拠となる。

(4)専門人員の教育と再教育

新しいデザイン観念の導入およびデザイン規範と水準の更新に際して、専門人員の訓練と再教育が必要となる。

(5)妨げのない、かつ安全な歩行環境および公共交通機関システム

高齢者の日常活動において主に使用する運輸ツールとは、歩行と公共交通機関である。したがって、完璧で安全な歩道と公共交通機関システムを構築することは、基本要件になる。

(6)使用者の参加

交通輸送システムの利用者には、国民全体と外国人が含まれ、その中には、様々な身心状態を持つ使用者が存在する。多様な需要に応え共存するために、システムの計画とデザインの際には、様々な使用者による適切な試用が必要となる。

参考文献

林萬億, 高齢社會的來臨為 2025 年的台灣社會規劃, 人文與社會科學, 13 卷 2 期, 2012